

16日 水曜

ルカ



21:25 そして、日と月と星には、前兆が現われ、地上では、諸国の民が、海と波が荒れどよめくために不安に陥って悩み、

21:26 人々は、その住むすべての所を襲おうとしていることを予想して、恐ろしさのあまり気を失います。天の万象が揺り動かされるからです。

21:27 そのとき、人々は、人の子が力と輝かしい栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。

21:28 これらのことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上を上げなさい。贖いが近づいたのです

21:29 それからイエスは、人々にたとえを話された。「いちじくの木や、すべての木を見なさい。

21:30 木の芽が出ると、それを見て夏の近いことがわかります。

21:31 そのように、これらのことが起こるのを見たら、神の国は近いと知りなさい。

21:32 まことに、あなたがたに告げます。すべてのことが起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。

21:33 この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

21:34 あなたがたの心が、放蕩や深酒やこの世の煩いのために沈み込んでいるところに、その日がわなのように、突然あなたがたに臨むことのないように、よく気をつけていなさい。

21:35 その日は、全地の表に住むすべての人に臨むからです。

21:36 しかし、あなたがたは、やがて起ころ

うとしているこれらすべてのことからののがれ、人の子の前に立つことができるように、いつも油断せずに祈っていなさい。」

21:37 さてイエスは、昼は宮で教え、夜はいつも外に出てオリーブという山で過ごされた。

21:38 民衆はみな朝早く起きて、教えを聞くうとして、宮におられるイエスのもとに集まって来た。

この世の終わりは必ず来ることを忘れてはなりません。あらゆるものの存在が土台からなくなってしまうのです。しかし神さまだけは決して揺り動かされない、私たちの土台であり避け所です。今からそのような信頼を持って、主とともに生きてゆきましょう。

神が決して揺り動かされないということは、神の「ことばは決して滅びることが」ないということです。それはまだ私たちが地上を歩んでいるとき、またこの世が続いているときも同じです。ですから神のことばをないがしろにする者には、艱難のときにまたは世の終わりのときに、平安はありません。

「よく気をつけて」いましょう。それは「この世の煩いのために」気を取られているときも同じです。煩っている人は同情されそうですが、そのような中でこそ主の助けを求めることができるのですから、煩いゆえに主から心が離れることがないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

